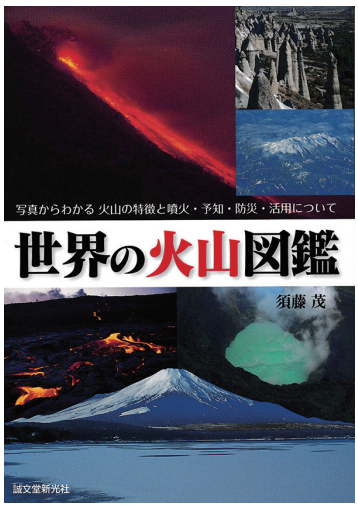
書籍紹介

世界の火山図鑑：写真からわかる火山の特徴と噴火・予知・防災・活用について

須藤　茂　著

誠文堂新光社
2013 年 8 月 31 日（初版）
サイズ：21 x 15 x 1.3 cm
カラー版 223 ページ
ISBN：978-4-416-11364-6
価格 2600 円＋税



私はここ 3 ヶ年冬場に，火山活動研究グループの諸賢のお手伝いで，桜島火山の降灰調査に参加している．この研究プロジェクトでは，桜島が噴火した際に大気に舞う火山灰を噴火口から東南東方向の垂水～鹿屋～志布志方面に向かって一定距離を持って採取して，噴火口からの距離によって，火山灰の粒径や粒子形状がどのように変化するのかを定量的に評価することを目的とする．この場合，もちろん噴火時点での天気，風向風速や噴煙柱の到達する高度等，考慮すべきパラメーターは複数あるが，海岸砂丘以外の風成堆積物についての研究経験が皆無であった私にとっては，たいへん目新しい研究対象となっている．その一方で，調査地域である大隅半島北部には 3 万年前に破局的噴火を起こした姶良カルデラによる入戸火砕流が厚層かつ広域に広がりシラス台地を形成しており，その噴火時の凄まじい情景を想像するのも容易である．最近，つくば市を含めた首都圏一帯でも，富士火山が 1707 年宝永大噴火と同じスケールの噴火を行った場合の火山灰による災害への対応が議論されて来ている．私たちの桜島火山で行っている降灰調査の結果も，ゆくゆくはこの噴火シミュレーションの制約に寄与することができると信じている．

本書の著者である須藤　茂氏は，工業技術院地質調査所入所以来，地熱や火山の専門家として長年研究を行ってこられた．退職後の現在も，地質標本館においてシニアスタッフとして活躍されている．本書は，250 にも及ぶ日本や世界各地の代表的な火山の産状をカラー写真で紹介している表題通りの図鑑である．一般に火山は，地下のマグマの性質，噴火サイクル，形状などで幾つかの種類に分類することが可能であるが，それらの個々の事例の解説，山体の規模, 噴火史などのデータをわかりやすく解説している．また，著者の経験に基づく火山防災に関しても詳しく書かれている点が特筆される．

本書は以下の 15 章から構成されている．第 1 章 “ 火山の地形と大きさ ” および第 2 章 “ 火山の内部構造 ” には，火山学の基礎がわかりやすく書かれている．第 3 章 “ 日本の火山 ”, 第 4 章 “ 世界の火山 ” および第 5 章 “ 火山噴出物 ” には，美しい火山や火山噴出物の写真が多数有り，本書の最高の読みどころと言える．第 6 章 “ 噴火と災害 “，第 7 章 “ 噴火予知と災害軽減 ”, 第 8 章 “ 火山活動の推移の例 ”, 第 10 章 “ 火山観測所 ” には，火山災害や噴火予知について詳しく解説されている．更に，第 11 章 “ 火山の恵み ”, 第 12 章 “ 地熱発電 ”，第 13 章 “ 温泉 ” には資源としての火山について，第 14 章 “ 観光 ” および第 15 章 “ 火山の博物館 ” には火山観光について紹介されている．本書中に使われている文章や写真の多くは，須藤氏の長年にわたる研究業務として携わってこられた資料が基となっており，今回の出版のために，丁寧に編集しなおされたのであろう．

2013 年 6 月下旬，ユネスコは，カンボジアで開催した世界遺産委員会で，富士火山を世界文化遺産に登録した．富士火山は古来より日本の象徴として葛飾北斎らの浮世絵の題材にもなり，その文化的価値が高く評価されたためであろう．このこと自体は，我々日本人の多くが喜んでいることと想像する．しかし，その一方でこの美しい円錐形の容姿は，10 万年前から繰り返して来た巨大火山噴火の蓄積によって形成されてきたものであることは紛れもない事実である．本書は，我々日本人に対して，火山と真摯に向きあって生きる意味を考えさせる最高の啓蒙の書と私は考える．

（産総研 地質情報研究部門　七山　太）